

アドバイザー委員会の評価と助言を受けて

令和2年12月

国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター

研究開発戦略センター（以下「CRDS」という。）では、その活動ならびに戦略プロポーザル（提言）等の成果とその活用状況等を評価し、業務の改善に活かすため、有識者から構成される研究開発戦略センターアドバイザー委員会（以下「委員会」という。）から評価と助言を受けている。

第15回委員会は平成31年／令和元年度に開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑みて延期とし、令和2年9月15日にオンラインで開催することとした。第15回委員会では、新型コロナウイルス感染症に関するCRDSの対応のほか今後の活動への助言を中心に議論が行われた。

本稿では、委員からの評価・助言と、それらを受けたCRDSの活動方針について述べることとする。

1. 評価と助言の整理

CRDSの活動状況や課題、今後実施したいと考える取組等について、各委員よりいただいた評価内容と助言を、以下1) 2)として整理した。

1) CRDSにおける知見の生産・蓄積・活用のあり方について

(助言内容)

- ・ 分野横断的な取りまとめや、個々の分野での戦略プロポーザル等は大変参考になるし今後も続けて欲しい。
- ・ 国の政策にも関与度合いが増えており、活動全体として十分に評価できる。
- ・ 基礎研究の成果が社会実装されない日本の現状には何らかの改革が必要と思われる。研究開発戦略には真のイノベーションエコシステム形成に必要なチーム作りまでの検討を期待する。
- ・ CRDSの成果が政策、施策にダイレクトに活用されるようなPRをすべき。
- ・ 社会実装が期待される技術であっても難易度が高い研究開発については、適切な組織と連携しつつ、基礎基盤的な原理から実用化までの研究開発戦略をきちんと積み上げることを期待する。
- ・ 戦略立案においては資源配分も重要。資源配分の方角性を示すことも重要。
- ・ 俯瞰報告書「日本の科学技術イノベーション政策の変遷」の取組は非常に重要。研究者とも一体となって議論を深め今後の政策等に取り組んでほしい。
- ・ CRDSは国内外の情報収集において素晴らしい仕事をしている。これらの情報を分析し次の重要なトピックを考え出すことが最も重要。
- ・ COVID-19に関してCRDSから発出された情報は正しく公平で信頼できるものであった。このような資料がもっと活用される仕組みを作るべき。
- ・ 研究者のもとにも情報を届ける工夫をお願いしたい。
- ・ RRIの概念がCRDS活動に組み込まれていることは誇りに思っている。

2) ウィズ／ポストコロナの社会を見据えたCRDSの方向性について

(助言内容)

- ・ 新型コロナは単独の問題ではなく人と自然の関係による大きな問題の一つ。こうした大きな問題をどう見ていくか、どういう提言ができるかが重要。

- 不慮の事態、急激な変化に対して素早く柔軟に対応するための研究開発戦略が求められる。
- 感染症研究に求められる知識や機器、研究開発資金を優先的に投入すべき研究などを考える上での道筋を示してもらえると有用。
- 人の出入りが制限されたり、交流が停滞したりしている状況を分析し、今後の研究開発や研究環境の在り方を示すことが求められる。

2. 評価・助言を受けた CRDS の活動方針

CRDS は国の科学技術イノベーションに関する調査、分析、提案を中立的な立場に立って行う組織として、科学技術分野や科学技術関連政策の俯瞰、社会や海外動向の分析から課題を抽出し、これらを基に政策を提言し、さらに提言の活用促進と実現に向けて活動を行っている。CRDS の提言は、政府関連機関における各種政策・施策の立案に反映されてきただけでなく、JST の各種事業の立案・充実にも活用されてきた。

一方で、世界においては、科学技術イノベーションを成長戦略の柱と位置づけ、実現に向けて、科学技術政策をはじめ関連する諸政策を総合的に推進しようとする動きが目立ってきている。それに加え、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が経済社会活動や国際秩序にも多大な影響を与えており、社会変革に向けた科学技術イノベーションの貢献が一層期待されている。日本においても、COVID-19 により顕在化した既存の社会システムの様々な問題の克服に向けて科学技術イノベーションの貢献が求められる中、CRDS に期待される役割もより多様に、かつ拡大している。

評価と助言を受けて、CRDS は今後も我が国の科学技術振興とイノベーション創出を先導する公平中立なシンクタンクとしての機能を強化しつつ、より多くのステークホルダーから信頼され、期待される CRDS を目指し、次のような取組を行っていく。

- CRDS は、科学技術イノベーションに関する調査・分析を基盤とするシンクタンクとして、国内外の研究開発分野の現状や政策動向の俯瞰的分析をもとに、我が国の科学技術振興とイノベーション創出に有効な提言を行う。それを通じて、新しい知の創造や研究開発を取り巻く環境や仕組みの強化に貢献する。また、社会の持続的発展や変革につながる科学技術駆動型のイノベーションの創出について意識を向けていく。
- 上記を実現するために、CRDS の強みである生きた知見の獲得や洞察に基づく研究開発の俯瞰や新たな潮流の見極めを引き続き追求していく。また、社会、経済、倫理などの潮流に関する理解を深める活動を継続し、CRDS 内部の知見の充実を図る。
- 新たな知を生み出し、また、知の結合を促進してイノベーションの創出を図るため、CRDS 内外との協働・連携の推進、異分野融合・分野横断の取組を一層強化する。
- ステークホルダーである政策当局、学界・研究者、産業界・企業、市民と課題や問題意識を共有し、対話をおこなうため、発信について引き続き注力する。ステークホルダーとのコミュニケーションを強化することにより、提言等の社会における一層の活用を図る。
- これまで拡大・蓄積してきた CRDS 内の経験や知識、情報、提言内容などを、組織的に整理・共有する。それにより、研究開発のトランスフォーメーションや Society 5.0 の具体化といった、時代の要請や社会的課題に応じた提言や発信を効果的に、かつ迅速に行うことを目指す。
- 社会の持続的発展や変革につながる科学技術駆動型のイノベーション創出における貢献度を高めていくためには、CRDS とは異なる強みを有する機関との共創が重要と思われる。上述のような取組に加えて、CRDS とは異なる強みを有するステークホルダーとの連携やネットワークの構築を模索しつつ、CRDS の貢献のあり方を探り、活動に反映していく。

以上